

## 特別講演 2

### 「炎症性腸疾患 内科治療 update

#### ～最新の治療指針と兵庫医科大学の治療成績を中心に～

兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座 内科部門教授

中村 志郎 先生

炎症性腸疾患 (inflammatory bowel disease ; IBD) の患者数は本邦でも年々増加の一途をたどり、特定疾患の医療受給者数と登録数を合わせた患者数は、2020 年には潰瘍性大腸炎が 20 万人、クローン病が 5 万人に達すると予想されており、IBD も日常診療で遭遇することが稀でない消化器疾患となってきた。

IBD の内科治療は、2010 年以降に相次いで新しい治療法や薬剤が登場することにより急速な進歩を遂げ、その治療成績も大きく改善されつつある。特に抗 TNF- $\alpha$  抗体製剤は IBD の内科治療体系に根本的な変革をもたらし、以後のその他の生物学的製剤や低分子化合物などの開発を強力に推進する結果となった。また、難病研究班が定める治療指針も、渡辺班以降は毎年改定作業が行われ、常に治療に関わる最新情報が一般医に向けて発信されている。

今回の講演では、長年本邦における IBD 診療の基準ともなっている治療指針を中心に、最近の内科治療の動向や具体的な治療戦略を、兵庫医科大学の治療成績を織り交ぜながら発表させていただく。